

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成29年度)

2. 分野等別状況 (1) 国際戦略総合特区(4/7)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区 (神奈川県、横浜市、川崎市)	4.2	5.0 進捗度 ・特区事業の実施によるライフイノベーション分野における経済効果 211% ・個別化・予防医療及び未病改善などを実現するためのデータサイエンスの活用等に 取り組む事業数 150% ・医薬品・医療機器・再生医療等製品等の早期実用化に向けた取組 件数 219% 等	2.7 財政支援等 ・地域イノベーション戦略支援プログラム ・PET薬剤等の新規診断薬の研究開発及び製造に関する事業等 地域独自の取組 ・産業集積促進奨励金 等	4.5	<p>・規制の特例措置の活用が不十分。規制緩和について議論が進められていることについて具体的な説明を期待したい。</p> <p>・評価指標(1)の経済効果を判断する数値目標としては、投資額のみならず、財政支援によってもたらされる工業出荷額の増加等を用いることが望ましい。</p> <p>・iPS細胞の凍結保存液の製品化、アミノインデックスを活用した事業開発、PET検査用医薬品の商用生産など、具体的な事業化が順調に進捗しており、急速に実績が上がってきた。さらなる発展に期待する。</p> <p>・PET検査医薬品に関する事業について、当区域における研究拠点の形成にどのように寄与したのか、より具体的に記載することが望ましい。</p> <p>・peer reviewが行われない学会で発表された事業については、今後、学術的・事業的な成果を創出されたい。</p>